

各自治体への義援金のお届けについて

東京大学で募集を行った「東日本大震災にかかる義援金」は、学内外の多くの方々の温かいご支援により、総額 1 千 2 百万円余となりました。この義援金は、5 月 1 3 日から 8 月 3 日までの間に岩手県、宮城県、福島県、茨城県、釜石市、遠野市、大槌町の各首長等に、お届けしましたのでご報告いたします。

1. 前田室長が遠野市へ義援金を届けました。

平成 2 3 年 5 月 1 3 日、前田救援・復興支援室長が岩手県遠野市役所を訪問し、義援金 1 0 0 万円を及川増徳副市長に届けました。懇談では、前田室長から東日本大震災による被害についてお見舞いの言葉があった後、及川副市長から義援金に対する謝辞に引き続き、被災地域の現状及び遠野市における後方支援の状況等についての説明がありました。その後、市役所玄関で両者による東京大学救援・復興支援室遠野分室の看板設置が行われました。



写真) 義援金目録を及川副市長に手渡す前田室長＝遠野市役所

2. 前田室長が大槌町（1）へ義援金を届けました。

同 5 月 1 3 日、前田救援・復興支援室長が岩手県大槌町立大槌小学校校庭に設置された岩手県大槌町仮設役場を訪問し、義援金 1 0 0 万円を東梅正昭副町長に届けました。懇談では、前田室長から、「同町に所在する大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターを復旧させ、今後も大槌町との関係を維持したい。」旨の発言があった後、東梅副町長から義援金に対する謝辞が述べられました。



写真) 義援金目録を東梅副市長に手渡す前田室長(左)、懇談の様子(右) =大槌小学校

3. 前田室長が宮城県へ義援金を届けました。

同7月8日に、前田救援・復興支援室長が宮城県庁を訪問し、義援金200万円の目録を岡部敦保健福祉部長に届けました。懇談では、前田室長から、東日本大震災による被害についてお見舞いの言葉があり、岡部部長から義援金に対する謝辞が述べられました。その後、前田室長から本学の救援・支援活動の状況について説明があり、「今後、大学として復興へ向けての支援を続けていきたい。」旨の発言がありました。



写真) 義援金目録を岡部保健福祉部長に手渡す前田室長 =宮城県庁

4. 前田室長が福島県へ義援金を届けました。

同7月8日に、前田救援・復興支援室長が福島県庁を訪問し、義援金200万円の目録を五十嵐宏治参事に届けました。懇談では、前田室長から、東日本大震災による被害ならびに原発事故の放射能による避難生活を余儀なくされている多くの県民の方々に対してお見舞いの言葉があり、五十嵐参事から義援金に対する謝辞が述べられました。



写真) 義援金目録を五十嵐参事に渡す前田理事(左)、懇談の様子(右) =福島県庁

5. 前田室長が茨城県へ義援金を届けました。

同7月25日に、前田救援・復興支援室長が茨城県庁を訪問し、義援金200万円の目録を橋本昌知事に届けました。懇談では、橋本知事から義援金に対する謝辞が述べられた後、前田室長から橋本知事に対して、「放射線に汚染された土壌の処理や風評被害に苦慮する同県に対し学術研究の面からサポートをしていきたい。」旨の発言がありました。



写真) 義援金目録を橋本知事に手渡す前田室長=茨城県庁

6. 前田室長が釜石市へ義援金を届けました。

同8月2日、釜石市役所に前田救援・復興支援室長が訪問し、義援金100万円の目録を野田武則市長に届けました。懇談では、前田室長から東日本大震災による被害に対するお見舞いの言葉に引続き、野田市長から「釜石市は復興計画の策定は早かったものの、それを実際に実施していくことの困難を痛感しており、未曾有の大災害からの復興のため、ぜひとも東京大学の先生方に支援をしていただきたい。」旨の発言がありました。



写真) 義援金目録を野田市長に手渡す前田室長(左)、懇談の様子(右) = 釜石市役所

7. 前田室長が大槌町(2)へ義援金を届けました。

同8月2日、前田救援・復興支援室長が大槌町仮設役場を訪問し、義援金1,185,238円の目録を平野公三大槌町長職務代理・大槌町総務課長に届けました。大槌町への義援金のお届けは5月に続いて2度目です。懇談では、改めて前田室長から東日本大震災による被害に対してお見舞いの言葉があり、平野大槌町長職務代理から仮設住宅の建設・入居の状況ならびに町長選挙の準備状況など復興の現状について説明がありました。



写真) 義援金目録を平野町長職務代理に手渡す前田室長 = 大槌町仮設役場

8. 前田室長が岩手県へ義援金を届けました。

同8月3日、前田救援・復興支援室長が岩手県庁を訪問し、義援金200万円の目録を小田島智弥保健福祉部長に届けました。懇談では、前田室長から東日本大震災による被害に対してお見舞いの言葉があり、小田島保健福祉部長からは県内の復興状況の説明に引き続き、「復興には最低10年はかかると考えており、県及び各市町村に対する東京大学の多

様な協力を期待している。」旨の発言がありました。



写真) 義援金目録を小田島保健福祉部長に手渡す前田室長＝岩手県庁

以 上